

2年生 ヒマワリのために～やさしい・かしこい姿～

2年生は、自分たちの鉢でヒマワリを育てていました。夏休みの間はお家でお世話をしていたそうです。なかには、せいっぱい咲いて次のいのちをつなぐために種をつけて枯れてしまったヒマワリもありました。そのなかで、まだ、元気に咲いているヒマワリがありました。そのヒマワリのお世話をしている子は、帰りに自分のヒマワリを見て「水をあげなきゃ」と思い、水やり用のペットボトルを持って水道に走りました。出てきた水は暑さのためはかなり熱くなっていたようで、一度ペットボトルに入れた水を流してしまいました。「先生、水が熱くなってる！ヒマワリにあげられない！」と駆け寄ってきました。「校舎の中の水道の水なら大丈夫かな？」と言うと、校舎の中の水道へ行き「ここのはマシかも！」と行って水を汲みヒマワリの元へ走っていきました。

水やりをするタイミングをこの後考えられるといいな…と思いながら走っていく姿を追っていました。なんでも最初から教えることも大事ですが、今日、その子はヒマワリを思いやって熱い水はダメだ、でも、一生懸命咲いているヒマワリに水をあげなければ…と考えて行動していました。自分の手で感じた水の熱さが植物にとってもよくないと…。

このことからクラスみんなで、みずやりの仕方について、あまり温度が上がらない朝のうちに水をあげると良いこと、しっかり世話をすれば長く咲かせることができること等いろいろ考えて学んでほしいと感じました。生活科の学習で植物を育てることで学んだことが今後、3年生からの理科の学習につなげていければいいなと思います。何より、2年生の子どもたちが、優しいかしこい子どもに育てていることが嬉しいです。

